

くじらぐも

～登場人物との対話を通して物語世界を広げる～

授業者 附属池田小学校 三笠啓司

1. 対象 附属池田小学校第1学年南組(33名)

2. 単元目標

・知識及び技能に関して

登場人物の行動、場面の設定、場面の移り変わりを基に、物語の内容の大体を捉えることができる。

・思考力、判断力、表現力等に関して

場面の様子や登場人物の繋がりに着目することで、登場人物の心情を豊かに想像することができる。

・学びに向かう力、人間性等に関して

物語世界を想像することを楽しみ、自分の感じたことや考えたことを表現しようとしている。

3. 指導に当たって

(1) 教材観

本教材は、何気ない日常に現れた大きなくじらぐもとの出会いを通して、1年2組の子どもたちが非日常世界をくじらぐもと共に楽しむファンタジー作品である。1年生の子供たちは、本教材で初めてファンタジー作品を体感する。おそらく子供たちは、自分たちもくじらぐもにのっているような気分で物語を読み進めていくことだろう。1年2組の子どもたちになって、くじらぐもと過ごす楽しさを表現したり、描かれていないくじらぐもとの会話を想像したりと、本教材を通して子供たちが自分の物語世界を広げていく学びを創っていきたい。

自分たちも「くじらぐも」という物語世界と同じように、想像力を働かせることで豊かな非日常を味わうことができる。そんな期待を子どもたちに抱かせてくれる魅力に溢れた教材である。

(2) 児童観

これまでの物語の学習では、場面の移り変わりにおける登場人物の行動について、具体的に想像を広げ、読み深めていくことを中心軸に据えてきた。登場人物に同化して考えを表現したり、描かれていない物語世界を想像したり、子供たちは、自分なりの物語世界を楽しんでいる。また、友達との対話を重ねることで、多様な感じ方や考えに触れ、自分なりの考えを表現できるようにもなってきた。物語世界を想像する楽しさや喜びは、これまでの読書経験や国語科の学習経験によって支えられている。「くじらぐも」の学習では、これまで培ってきた想像する楽しさを十分に味わってほしいと思う。

登場人物と自分を重ね、生活経験や読書経験を繋げながら、物語世界を自分なりに彩っていく。そして、自己内対話、他者との対話だけではなく、何よりも教材との対話を楽しみ、自分なりに「くじらぐも」の物語世界の素敵さを語る子どもたちの学びの姿に期待をしている。

(3) 指導観

本単元では、登場人物への同化を中心に学習を進めていく。特に、子供たちの豊かな想像力が表出されるのは、1年2組の子どもたちがくじらぐもにのって青い空を泳ぐ場面であろう。子どもたちは、くじらぐもの上でどんな景色を見ているのだろう。どんなことをするのだろう。どんなことを話すのだろう。きっと、その子なりの豊かな読みが表現されるはずである。ただ、くじらぐもと楽しい時間を過ごした子どもたちにも、くじらぐもとの別れが訪れる。この4時間目の出来事を、子供たちにとって身近な絵日記で表現する。そして、この忘れられない出来事を家族に話すことで物語を語り直す。書くことと読むことを繋げることで、自分なりの物語世界を豊かに味わわせたい。

4. 評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
場面の設定や移り変わりを捉え、登場人物の言動や会話文を基にしながら内容の大体を理解している。	登場人物に同化したり、登場人物と対話したりしながら、登場人物の気持ちや行動を自分なりの言葉で表現している。	物語世界を思い浮かべながら、文章や挿絵から感じたことや考えたことを自分なりに表現しようとしている。

5. 単元の指導計画(全8時間)

時間	学習内容	主な評価規準	評価の観点			評価方法
			知技	思考	態度	
1	題名読みをし、物語世界を想像する。 初発の感想を書く。	おもしろいところ、心に残ったこと、みんなで考えたことを表現できる。	●	●	●	対話の様子 発言 ノート
2	初発の読みを全体で共有し、物語の読みどころを視覚化する。	初発の読みを表現することができる。	●	●	●	対話の様子 発言
3	登場人物や場面の様子などに着目して、作品の設定を捉える。	登場人物の様子や出来事、結末などを捉えることができる。	●	●	●	対話の様子 発言 ノート
4	くじらぐもに出会った子どもたちの心情を想像する。	登場人物に同化し、自分の考えを表現できる。	●	○	●	対話の様子 ノート
5	くじらぐもととびのうろうとする子どもたちの心情を想像する。	登場人物に同化し、自分の考えを表現できる。	●	○	●	活動の様子 ノート
6 7	くじらぐもとと一緒に青い空を泳ぐ子どもたちの心情を想像する。	登場人物に同化し、自分の考えを表現できる。	●	○	●	活動の様子 ノート
8 【本時】	4時間目の出来事を絵日記に表し、絵日記をもとにして心に残ったことを家族に伝える。	心に残ったことを絵日記で表現し、家族に話すことで物語を語り直すことができる。	●	○	●	活動の様子 対話の様子 ノート

●・・・形成的評価(指導に活かす評価) ○・・・総括的評価(記録に残す評価)

6. 本時の展開

(1) 本時の目標

登場人物に同化して、くじらぐもと過ごした4時間目の出来事を絵日記で表現し、家族に伝えることを通して、物語を自分なりに再話することができる。 【思考・判断・表現】

(2) 本時の評価規準

・くじらぐもと過ごした4時間目の出来事を絵日記に書くことで、物語のおもしろさを表現することができる。

(書くこと)

・絵日記に表したことをもとに、心に残ったことを家族に伝えることで、自分なりに物語を語り直すことができる。

(話すこと)

(3) 本時で発揮されるグローバル市民性について

本時で発揮されるグローバル市民性は、対話する力である。対話を通して、自己の考えのよさに気付く。また、自分の考えと同じように、他者の考えを大切にしようとする学びの姿を目指す。

(4) 展開

学習過程	学習活動および内容	指導上の留意点	評価の観点・方法
導入 10分	<p>○前時の学習を振り返る。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・くじらぐもの上から、みんなは、何を 見ていたのかな。 ・くじらぐもの上で、みんなは、どんな お話をしていたかな。 <p>○子どもたちとくじらぐもの別れの場 面の様子を想像する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・みんなは、くじらぐもにどんなことを 伝えたいかな。 	<ul style="list-style-type: none"> ・挿絵を提示しながら、これまでの学習を 整理し、視覚化していく。 ・別れの場面では、「さようなら」と言う言 葉しか交わしていない。「自分だったらど んなことを伝えたいかな」と問い、同化し ながら、心の声を視覚化させていく。 	<ul style="list-style-type: none"> ・くじらぐもの上で、自 分が感じたことを表現 することができる。 【活動・発話の様子】 ・別れの場面で、くじら ぐもに伝えたい思い を表現することができる。 【活動・発話の様子】
展開 30分	<p>○「くじらぐもと過ごした4時間目の 出来事を絵日記で表そう」という 学習課題を共有する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・みんなは、くじらぐもと一緒に青空 を泳いだね。どんなことが一番楽し かったのかな。 ・みんなが楽しかったくじらぐもとの 思い出を絵日記に表してみよう。 ・どんなことを絵日記に書きたいか な。 <p>○「絵日記に書いたことを家族にお 話しよう」という学習課題を共有す る。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・絵日記をもとにして、4時間目のこ とを家族にお話しよう。 ・どんなことをお話ししたいかな。 	<ul style="list-style-type: none"> ・絵日記に表すことで、くじらぐもへの思い を表出させていく。 ・書くことが難しい児童へは、一番楽しか った場面、心に残った場面を問い、その 時の気持ちを表現できるように声掛けす る。 ・書くことに課題を抱える児童もいる。書く ことが難しい児童は、話すことで気持ち を表現させていく。 ・絵日記をもとに、お母さんに何を、どのよ うに話すか考えさせる。考えが整理でき た児童は、自由に友達と交流させる。 ・児童の交流の様子を見取り、具体的に 楽しかったこと、面白かったことなど伝え ようとしている姿を価値付けしていく。 	<ul style="list-style-type: none"> ・絵日記にくじらぐもと 過ごした楽しさを自 分なりに表現するこ とができる。 【ワークシート】 ・他者との対話の場面 では、進んで自分の 考えを伝え、他者の 考えを共感的に受け とめようとしている。 【活動・発話の様子】
<p>絵日記に書いたことをもとに、くじらぐもと過ごした出来事を家族にお話しよう。</p>			
	<p>○お母さん(教師)にくじらぐもと過 ごした出来事を話す学習活動を行 う。</p> <p><u>子ども</u></p> <ul style="list-style-type: none"> ・今日、くじらぐもにのったんだよ。 ・くじらぐもは大きくて、ふかふかだっ たよ。 ・お別れしたけど、また会いたいな。 <p><u>お母さん(教師)</u></p> <ul style="list-style-type: none"> ・どうやってくじらぐもにのったの？ ・くじらぐもの上で何をしたの？ 	<ul style="list-style-type: none"> ・お母さん役は、教師が行う。 ・話すことにおける不安定さを補うために、 教師が問いかけを行い、児童の考えを 深めるきっかけをつくる。 ・「どんなことをお話していたかな。」「自 分と似ているところはあったかな。」など と全体に問い、教師と演じている児童の やりとりのみに終始しないようにする。 ・書くこと、話すことを繋げ、物語を自分 なりに語り直そうとする児童の学びの姿を 見取り、全体へ返していく。 	<ul style="list-style-type: none"> ・くじらぐもと過ごして 自分が感じたことを 会話の中で表現する ことができる。 【活動の様子】 ・物語世界を自分 なりに語り直すこと ができる。 【活動・発話の様子】
5 ま 分 と め	<p>○学習の振り返りをする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・今日の学習を通して、自分の考え を整理し直す。 	<ul style="list-style-type: none"> ・他者との共有を通して、自分の考えを表 現し直し、全体で学びを振り返る。 	<ul style="list-style-type: none"> 自分の考えを振り返 ることができる。 【発言・ノート】